

あいあい通信

AIAI-TSUSHIN 2011.9 Vol.48



◆院長の一言メッセージ◆

モチベーション

院長 松田保秀



東 日本大震災が発生して6ヶ月が経過し、復興が急速に進みつつある。新聞に死者と行方不明者数が毎日掲載されていて、9月9日現在、行方不明者が4225名と減少し、逆に死者の数は15776名を超えた。この数字を注視しているだけで、災害の悲惨さと現地での復興状況が推測出来る。そして日本国民だけでなく、世界の人々が災害復興に対して強い意志と

熱気を持って行動しているのを知って胸が熱くなる。特に今まで社会に対して無関心だと言われていた若い世代の人々の心ががらりと変わって、人間としてなすべきことを自主的に、損得なしに行なっている姿が印象的である。この点が今までになかった意識と行動パターンであると思える。今まで多くの人々は、モチベーション（動機づけ、やる気）が与えられないと行動できないという傾向にあった様に思われるが、何のことはない、モチベーションは待っていて与えられるものではなく、どんな環境であろうと自分が作るものであって、人に頼るものではないことが証明されたのではないだろうか？ その証拠に興味やスポーツなど、自分自身の好きなことは、周りからの指示や環境整備に関係なく行なっているのだから。結局、自分のモチベーションを高めるのは、きちっとした倫理観と強い責任感、他人を思いやる優しい心なのだろう。

外来診療の予約のお願い



外来診療における待ち時間を少なくするため、予約制を強化することになりました。受診に際しまして、下記についてご協力くださいますようお願い申し上げます。

■ご来院の際には事前に予約をお取り下さい

◇ご予約はお電話でも承ります。 ◇受診当日のご予約も、午前・午後ともに可能な限り承ります。

外来診療は予約の方を優先させていただきます。予約のない方はお待ちいただく時間が長くなることをご承知下さい。 ※急患の方はこの限りではありません。

■土曜日の診療時間変更のお知らせ

平成23年9月3日より土曜日の受付時間を8:30～12:00とさせていただきます。

診療時間が短くなりますが、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

その他の診療科

	受付時間	月	火	水	木	金	土
胃腸・ 肛門外科	8:30～11:30	●	●	●	●	●	
	8:30～12:00						●
	14:00～16:00	●	●	●	●	●	

	受付時間	月	火	水	木	金	土
IBD(炎症性腸疾患)外来	8:30～11:30				●		●
ヘルニア外来			●				●
排便機能外来							●
内科相談				●			
泌尿器科相談				●			
ストーマ外来	14:00～15:00		●	●		●	
女性専門外来		●					
血管外来					●		



大腸内視鏡プロフェッショナルの ライブデモ開催!

去

る平成23年6月2日、松田病院内視鏡センターにおいて、昭和大学横浜市北部病院消化器病センター教授 工藤進英先生の大腸内視鏡ライブデモンストレーションが行われました。

工藤進英先生は陥凹型早期大腸がんの存在を世界に知らしめ、また大腸腫瘍性病変の表面をピットパターンで観察することにより、癌の存在やその深さを推測するピットパターン診断をリードしてきた医師として、世界的にも大変高名な方です。2008年にはNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に取り上げられました。(写真)



高名な先生の内視鏡挿入、観察手技を直接見学しようと、院内のスタッフだけでなく外部からも約30名の医師や看護師が訪れ、内視鏡室と中継会場となった病院3階の会議室は、延べ1000名の見学者で満員となりました。検査を受けたのは、あらかじめ公開の場で検査を受けることに同意していただいた3名の患者さんです。工藤先生は、内視鏡操作の細かいコツを丁寧に解説しな

がら短時間で盲腸まで挿入し、そのあと腸のひだ(しわ)を一つつめくるように観察し、拡大観察のコツも実際に示しながら解説してくださいました。幸い3名の患者さんに特に病気は見つかりませんでした。

検査のあとは、会議室で質疑応答コーナー「Meet the Professor」が行われました。参加者からは挿入や観察のテクニックから、大腸癌で亡くなる人を一人でも減らすための展望についてなど、さまざまな質問が出され、約40分があつという間に過ぎてしまいました。

参加者からは、「工藤先生のテクニックを直接見ることができて、これまでの我流の内視鏡挿入法を修正するいい機会になりました」「世界の工藤先生のオラを直接感じ、大腸癌の診療に対するやる気もらいました」など、大変好評でした。



内視鏡センター長
浅野道雄

工藤進英先生をお迎えして

17年前、私は秋田赤十字病院で1年間、工藤進英先生の教えを直接受ける機会を得ました。当時、毎日のように先生の内視鏡検査を見学し、必死にメモを取っていたことを思い出しました。そのとき学んだことは、現在当院で行

われている拡大NBI観察や内視鏡の大腸粘膜下層剥離術など、先進的な消化器内視鏡技術の基本になっています。

現在も全く衰えることなく、世界中で講演や内視鏡のライブデモを行っている「師匠」の検査を、改めて松田病院で目の当たりにすることができ大変嬉しく思いました。

現在、工藤先生が所属する昭和大学横浜市北部病院消化器病センターから、週1回、気鋭の若手医師に内視鏡検査を担当していただいています。今後、最先端の高度な技術を学び、患者さんに快適で高いレベルの内視鏡診療を提供していきたいと考えています。

当日、お越しいただいた医師・看護師には、お忙しい中ありがとうございました。



ボランティア活動報告ベトナム編③

中安小百合

風土病調査会と電子顕微鏡支援チームが2010年9月19日から28日までの10日間、ベトナムのカンナム県ダイロク地区を訪問し、寄生虫研究活動を行いました。最終回の今回は現地で行った健康調査の結果などご紹介します。

主な活動内容は、現地スタッフとの協同でのダイロク地区の住民300名の健康調査で、血圧測定、尿検査、糞便検査、腹部超音波検査、さらに肝臓吸虫の免疫学的検査(血清)、感染源となる現地湖沼河川産の魚類、生鮮野菜の寄生虫および水田、河川沼から人体への感染の有無の検査を実施しました。



右上) 採血です。ハノイ大学の研究員が担当しました。
左上) 顕微鏡で寄生虫の検査をしているところです。Dr.De(左)と佐野教授(右)です。
右下) 超音波検査です。Dr.Deが担当しました。



健康調査結果
地元住民に太っている方は少なく、年配の方々の99%は異常ありませんでした。また尿検査で糖が検出された方も2%で、全体に健康状態が良好であることが伺えました。しかし便中からの

寄生虫の感染率は高く30%を超え、手洗いの衛生状態だけでなく魚や野菜等、経口感染及び河川からの皮膚感染の対策が急務と考えられました。

糞便の寄生虫検査は男性110名、女性194名、計304名が受診されました。このうち92名が寄生虫に感染しており、そのうち感染者の90%に鉤虫卵が検出されました。感染者の男女割合は7:16で、女性が少し高くなっていました。

コミュニケーション(楽しいお昼の食事と)

田舎町なので食事処は保健所前の保健所お抱えのようなレストラン1件のみで、来店者は100%保健所関係者です。私は2度ほどそのレストランで昼食を取りましたが、面白い光景に出会いました。食事どきになると保健所の職員(官僚)がおもむろに来店する。顔見知りの人がいると「ヤアヤア」といつて同席をして乾杯をする。なぜか昼からビールが出ているが特別の日なのだろうか? 次に保健所の医師が来店し「ヤアヤア」と言って同席し乾杯する。小さな円卓に椅子がどんどん追加され、にぎやかな食事会となり2時間にもわたる大宴会です。「ヤアヤア」と言っで気さくに円卓に参加し、また「どうぞ、どうぞ」と言っで円卓をさらに広げる気さくさに非常に驚きました。というより、うらやましいほどのコミュニケーション能力をお持ちの方はかりと頭が下がりました。この光景は会議や保健所長室での談話の際も同様で「みんなウエルカム」なのです。

食事

日本の「そうめん」に似た麺類で「フォー」という食べ物があります。店の前にテーブルが並べられ、朝食として街中で簡単に食べることが出来るベトナム料理の代表です。昼食にはレストランで生春巻きの皮を大きくした米の薄皮に豚肉、野菜を巻いてニョクナムで食べる。日本ではお目にかかれない料理です。



ベトナム料理の代表で米飯シートの肉巻きです。

日本語学校

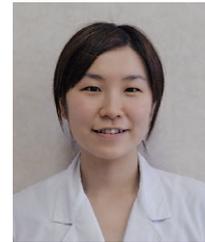
ベトナムには日本語学校が数多くあります。日本への留学希望者も多く親戚の多い国です。今回の隊長である浜松医科大学名誉教授の佐野基人先生は、静岡市にある「国際こども学院」の理事をしておられベトナムの日本語学校との交流も深められております。

風土病調査会は草分け的な小さなボランティア組織です。様々な制約がありますが、スタッフの一員として各国への援助支援が継続できればと考えております。

今回、国際こども学院関係者をはじめ大勢の方々のご協力により、ベトナムでの住民健康調査が実現できました。誌面をお借りしてお礼申し上げます。

早期退院を目指して

当院では、年間100例以上の大腸がんの開腹手術を行っております。このほど大腸がん手術をされる患者さんの中から症例を選択し「ERAS」(Enhanced Recovery After Surgery) フロントロールという手法を導入しました。「ERAS」フロントロールとは、手術前から手術中、手術後まで(周術期という)を包括的に管理することで患者さんのストレスや合併症を減らし、早期回復・退院を目指す管理方法のことです。今回はそのなかの特徴のひとつをご紹介します。



管理栄養士
池谷しづか

軽減するほか、点滴が不要になることで、針を刺される患者さんの苦痛がなくなり、点滴による医療事故のリスクもなくなります。また手術後も、飲料摂取を早期に開始する事により、感染症・合併症の軽減や、点滴を早期に離脱出来ることで早期離床が促進され、筋力低下の軽減や、静脈血栓形成の予防にもつながるといわれています。

従来、消化管手術の際には手術前夜から飲食禁止という考え方が主流でした。これは、胃の内容物が麻酔中に逆流して、誤って肺に入ってしまうことで発生する誤嚥性肺炎を予防するためです。しかし、最近の臨床研究では、手術の3時間前までなら成分の調整された飲料(経口補水液)を摂取しても、安全に管理できることが明らかにになりました。



経口補水液「OS-1」(大塚製薬)

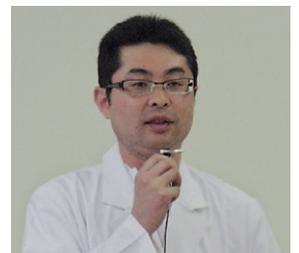
手術前に経口補水液を摂取することで、喉の渇きと空腹感によるストレスが

軽減するほか、点滴が不要になることで、針を刺される患者さんの苦痛がなくなり、点滴による医療事故のリスクもなくなります。また手術後も、飲料摂取を早期に開始する事により、感染症・合併症の軽減や、点滴を早期に離脱出来ることで早期離床が促進され、筋力低下の軽減や、静脈血栓形成の予防にもつながるといわれています。

この経口補水液は、数種類の電解質とブドウ糖がバランス良く含まれた飲料です。最近では熱中症や脱水予防の製品として、ドラッグストアでも販売されています。なぜ水分以外に電解質やブドウ糖が含まれているのかというと、脱水が起こると水分だけでなく電解質も失われること、その電解質と水分を体に取り込みやすくするためには適度のブドウ糖が必要だからです。

現在、管理栄養士は手術された患者さんに対し、手術当日と手術後1日目のお昼に、経口補水液の飲んだ量と空腹感、体調等をお伺いしています。「これでお腹がふくれるね」という声も聞かれ、喉の渇きや空腹感によるストレスが軽減していると感じています。今後は、これら意見を参考に医師と連携し、より適切な提供量等を検討していきたいと考えています。

ドクター紹介



尾田典隆 医師

① 出身地

栃木県日光市(旧今市市)です。乗降ドアを手動で開閉する電車が走っています。・・・田舎です。

② 血液型・星座

意外とB型です。ふたご座。

③ 当院へ来た動機、前医の紹介、自己アピールなど

松田病院で下部消化管、肛門疾患に携わりたいと願ってきました。以前は聖隷浜松病院で馬車馬のように働き、沢山の貴重な経験をさせていただきました。その前は宇都宮で働いていました。私は口数が少なく

人見知りなので、是非どんどん話しかけて下さい。

④ 趣味、ストレス解消法

ストレスはあまり感じない方ですが、寝ることで解消できます。栃木県にいた時は大学からアイスホッケーを続けていましたが、浜松に来てからはもっぱら家族サービスが趣味になっています。

⑤ 浜松あるいは松田病院の印象

浜松は暖かいところです。ちょっとしたお祭りでも何かと投げが行われることが多いと思いました。松田病院の印象は先輩先生方が皆優しく親切で嬉しく思っています。実際働いてみて、肛門疾患の患者さんの多さに驚いています。

⑥ 読者へのメッセージ

肛門手術の奥の深さに感銘を受けました。多くの手術を経験し、自分を磨いていきたいと思っています。皆さんどうぞよろしくお願ひします。

第6回 松田病院 ICLS講習会

医療安全管理室
中安小百合



ACLSとは二次救命処置のことですが、その膨大な内容のうち、突然の心停止に対する最初の10分間のチーム蘇生の修得に絞ったものがICLSです。6月12日、当院看護師10名、准看護師2名がICLSコースを受講しました。実地研修は7時間に及び、当院からも6名がインストラクターを務めました。これで当院では医師を含め医療従事者67名(75%)がICLS受講を終えました。



編集後記

広報委員会 渡部真一

今夏はじめて栽培した受付にある緑のカーテンです。カーテンと呼ぶにはほど遠いですが、鮮やかな緑が清々しいですね。ゴーヤの実もつきました。

●患者様へお願い●月1回、必ず保険証の提示をお願いいたします。



日本医療機能評価機構



Matsuda Hospital

特定医療法人
社団 松愛会

松田病院

〒432-8061 浜松市西区入野町753番地
TEL.053-448-5121(代) FAX.053-448-9753

JR=浜松駅下車 タクシーで10分 高塚駅下車 タクシーで5分
バス=浜松駅バスターミナル5番ポール(宇布見、山崎行)乗車
東彦尾または西郵便局下車 徒歩5分 駐車場 180台

E-mail cra@matsuda-hp.or.jp

ホームページ <http://www.matsuda-hp.or.jp/>

(発行)松田病院広報委員会